4.建築教育における俯瞰的連携

石川　孝重

（日本女子大学・建築教育ネットワーク小委員会主査）

若年人口の減少や建築業界がおかれている厳しい状況などの社会的な情勢から、将来の建築のあり様を考えるに、「教育」は重要なキーワードであり、いまあらためて教育の内容やその質が問われている。調査研究委員会にとどまらず、本学会内には教育に関連する委員会が多数ある。研究活動を通じ自然発生的に各分野に創設された委員会も少なくない。

そこで、調査研究委員会の傘下にある教育小委員会、教育に関係して学会が立ち上げる特別調査委員会などの連携・調整を通して、これまで縦割りだったものを境界領域的な部分、重なっている部分を見出し、建築教育の細分化を防ぎ、俯瞰的な建築教育の維持をはかっていくのが建築教育ネットワーク小委員会の目的である。

委員会の位置づけとしては、建築教育関連の、事業委員会、調査研究委員会傘下の小委員会に連携を呼びかけ、教育に関する委員会活動や関連を把握し、各部門の交流をはかり、建築教育活動を骨太なものにする。当小委員会にはそれぞれの小委員会から、またそれぞれの研究分野（計画、構造、環境、･･･）から積極的な情報提供をお願いしたい。学会の規約から委員の人数に制限があることから、広く教育関係の情報を共有するためには、当面の具体的な活動として、建築教育委員会主催の懇親会などの継続的な実施を考えたい。また教育支援会議（仮称）とも密接な連係をはかりたい。

同時に、行政、職能団体、業界団体の建築教育に対するニーズを的確にとらえることも重要であり、本小委員会ではこれらニーズを調査するとともに、本委員会の活動方針に反映させていきたい。